事後評価報告書（国際緊急共同研究・調査支援プログラム（J-RAPID）

１．研究・調査課題名：「地震動による建築物被害の実態と被災メカニズムに関する国際共同研究」

２．研究代表者名：

２－１．日本側研究代表者： 東京大学 大学院工学系研究科 准教授 塩原 等

２－２．アメリカ側研究代表者： カリフォルニア大学ロスアンゼルス校 土木・環境学科 教授 John Wallace

３．総合評価：研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

４．事後評価結果

（1）研究・調査成果の評価について

発災後の速やかな現地建築構造物の耐震性調査が実施され、被災建築物の問題点や免震・制震装置を備えた建築物の状況が明確になった点は高く評価できる。また、日米連携がある程度機能したことが確認できる。

一方、日米合同での論文がほとんど公表されておらず、日米連携のレベルがそこまで達していなかったように思える。今後さらに議論が深まることを期待したい。

（2）その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

予算の制約で日米の連携が十分なされなかったという自己評価であるが、相対的には最大限の努力が払われたと判断しても良いものと思われる。また、報告書が Springer 社から出版されたことは特筆すべきであろう。大地震時の建築構造物の耐震性に関して重要な国際的情報発信となった。

（3）総合評価コメント

日米連携の元、速やかな現地建築構造物の耐震性調査が実施され、被災建築物の問題点や免震・制震装置を備えた建築物の状況が明確になった点は高く評価できる。また、調査報告書が Springer 社から出版されたことは特筆すべきであろう。大地震時の建築構造物の耐震性に関して重要な国際的情報発信となった。